

2016 年度活動報告：短期日本語・日本文化学習プログラム（3 週間）

牛窪 隆太（関西学院大学日本語教育センター）

1. プログラム概要

短期プログラム（3 週間）は、協定校より留学生を受け入れ、3 週間で日本語と日本文化を学習するプログラムである。夏季プログラムは、7 月 20 日から 8 月 5 日の日程で開講された。今回より中級コースを開講し、自国で学習経験をもつ参加者にとっても意味のあるプログラム内容を目指した。コースは、初日に実施されたプレイスメントテストの結果をもとに初級 3 クラス・中級 2 クラスで開講され、留学生 60 名が参加した。また、本学の日本人学生 37 名が日本語パートナーとして交流授業に参加した。

2. プログラム内容

初級コースでは、身近なトピックについて話せるようになることを目標として、午後の交流授業で実際に使うことを想定した学習項目を設定した。趣味について話す、一緒に外出する、感想を述べる、買い物をする、お礼の手紙を書くなど、機能や場面を設定し、そこで使われる基本的な表現を学習した。中級コースでは、食文化について説明する、異文化交流について意見を述べる、街中でインタビューを実施して内容を発表するなどより抽象的なテーマについてタスクを設定し、タスク遂行の過程で日本語運用力を高めることを目標とした。各クラスには日本語パートナーが入り、留学生の学習サポートを行いながら、クラスメイトとして各活動に参加し、交流を深めた。文化学習のクラスでは、地域文化や食文化について日英でのバイリンガル講義を実施した。さらに、和菓子作り体験や、茶道や弓道体験、京都へのフィールドトリップなど体験学習を多く実施し、体験を通じた深い文化理解を目指した。コース最終日には、留学生と日本語パートナーが協力して「自分にとっての Cool Japan」をテーマにプレゼンテーションを行い、各コースについて最優秀プレゼンテーションを決定した。

3. 成果と今後の課題

今回、要望の高かった中級コースを新たに設定したことで、協定校から多くの日本語既習学生が参加できる内容になったことで、日本語の学びの観点からも意味のあるプログラムが実施可能になった。また日本語パートナーの位置づけについても再検討を行い、担当者間の共通認識として徹底したことで、日本人学生からも評価されるプログラムになった。一方、中級コースのレベル設定については、初級後半と中級前半の学生の間で混乱が見られ、中級前半の学生からコース内容について難しいという声も聞かれた。中級コースについては、今後レベル設定と学習項目を再検討する予定である。